

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503924), 法人名 (有限会社 アイ), 事業所名 (グループホーム 澄川の丘 ほたる), 所在地 (札幌市南区澄川6条7丁目1番1号), 自己評価作成日 (平成26年1月31日), 評価結果市町村受理日 (平成26年3月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

澄川の丘は、デイサービスと併設しており、お互いの機能を活かしながら、交流を深めています。環境的には、ホームの前に広がる栗林に四季を感じ、豊かな暮らしの1つとなっており、近隣には中学校、高校があり朝・夕と子供たちの元気な声が、リビングまで聞こえてきます。夕方には、吹奏楽部の演奏が聞こえ、心を穏やかにさせてくれます。また、昨年は初めての看取りを行いました。ご本人様、ご家族様が最後は住み慣れたホームでとの想いがあり、その想いに沿えたことに嬉しく思いました。が、ホームでの看取りの体制が十分ではない事を実感しました。また、職員も死に対しての考え方をもう一度、考えさせられました。十分なケアが出来たのだろうか？あの時、こうしていれば…。もっと何かしてあげたのではないかと夜勤での不安など。職員の心的ストレスを含め、今後、看取りケアにもっと取り組んで行きたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigyosyoCd=0170503924-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年2月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは丘陵の住宅地に建つ2階建て2ユニットのグループホームで、向かいにはデイサービスが併設されている。二つの建物は共通の入口から入り、左右に向かい合っている。斜面を生かした建物には2カ所のウッドデッキがあり、隣接する栗林とともに自然が感じられる造りになっている。ウッドデッキは近隣の人との語らいの場にもなっている。入居者の表情は穏やかで、安心して生活している様子が伺われ、職員の明るくきめ細やかな心配りの反映と思われる。外出の機会も多く、昨年夏には海にも出かけている。様々なボランティアの訪問は、単調になりがちなホームの生活に、心地良い刺激となっている。法人の方針で、北欧視察を始めとする、多くの研修の機会を設け、若い職員を育てようとする意気込みが感じられる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームでは「一人一人が主役となる出会い・ふれあい・支え合いの場を提供し、その人らしく楽しく一日を過ごして頂けるようサポートする」ということから、日々のサービス、ケアプランへの活用など、具体的につなげ実践している。利用者さんに対しても、職員のプロフィールと共に、季節に応じた装飾をし、楽しんでもらっている。	「入居者一人一人が主役」という法人の理念を基につくられた各ユニットごとの理念を掲示し、職員は理念を毎日の活動に照らし合わせ介護の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの行事には周辺住民の方や家族にも声を掛け、夏祭りやクリスマスの行事等、四季折々日常生活に心地良いリズムを作れるよう努力している。	夏祭りやクリスマスなど当ホームでの行事に近くの住民の方々に来ていただき交流を深めている。また、近くの高校からは部活で定期的にボランティア訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「澄川の丘の理念」をリーフレットとして作成し、一日の生活の流れや楽しみを楽しくしてもらうために具体的な内容を、生活環境の写真等を整え地域に開かれた環境に日々努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で改善項目が出た場合、ホームの会議の中で取り上げ職員と運営者が話し合いを持っている。行政関係者、町内会、家族等の参加を頂きながら報告事項以外に運営等の問題、課題について意見交換を行い、運営に反映されるよう努めている。	運営推進会議は家族、町内会、行政関係者の参加を得て定期的開催され、事故を含む日々の活動報告を行い、参加者の意見、要望を聞き、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夜間時、入居者の緊急時には常時、管理者・看護師・関係機関等との連携で迅速な対応が出来るようにしている。	行政との定期的な管理者会議に出席し、当ホームの実情やサービスの取り組みを伝え、行政との理解、共有に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアの必要性については、関連する資料を集め、職員は内部研修、日常業務を通して理解と実践に努め、外部研修へも交代で参加している。また、玄関の施錠は夜間のみとしている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、職員がいつでも確認出来るようにしている。また、外部研修、ケア向上委員会などの内部研修を通して日常業務の中で身体拘束のない実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア向上委員会にて身体拘束、虐待排除の対応について学び、委員会主催の勉強会を行っている。職員も十分に理解し業務にあたっている。また、拘束・虐待のアンケートも取り、職員間の意識・認識なども改めて確認し日々防止向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年変わらず、一部職員理解できているが他は理解できていないのが現状である。もっと学ぶ機会を増やし、全員が理解できるよう取り組む必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人様・ご家族様にお会いし、十分な説明をした上で理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には、普段の生活の中で不満・要望はないかお話し、ミーティングやカンファレンスにて解決する。ご家族様にも面会の際など伺っている。また、ホームの玄関に意見箱・苦情ボックスを設置している。	入居者の日常的な会話の中から、また家族からは面会時、運営推進会議などで意見、要望を聞き、運営に反映している。玄関には意見箱、苦情ボックスを設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、毎月のカンファレンス、管理職会議、主任会議、個人面談等行い、意見・提案等聞く機会を設け、普段よりも密に意見交換を行っている。	ミーティング、カンファレンスなど日々の報告、連絡などで職員それぞれの意見の反映があり、管理者会議、主任会議、個人面談で更に意見、提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレス、体調には常に気を配っている。有給休暇、出産休暇、育児休暇、長期休暇が活用でき、働きやすく女性でも安心できる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の実施、勉強会や職員のレベル・スキルに合わせた外部研修を多く取り入れ積極的に取り組んでいる。また全国グループホーム大会にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡会議や南区の一部地域に、二ヶ月に一度計画作成者の勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様とお会いし認知症状や生活状況、全身状態を確認し御家族様等に情報をお聞きしアセスメントする。それを元に職員間でも情報を共有する事で利用者様の尊厳を大切にし、より良い信頼関係が築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ここでの生活の説明・ホーム内見学を行い安心して利用していただける様、不安や希望をお聞きしている。利用者様にとって安心して住みやすく、落ち着ける場を提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談時などに、その方1人1人に合った支援が行えるように、生活への不安や要望を聞き、それにできるだけ応える様検討・考慮し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人1人の方の考えや思いを尊重・大切に、いつまでも目上の方に対する敬う気持ちを忘れずに心のケアを心掛けている。家事などお手伝いをする事で、ここでの存在意義をはかれる様支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに近況、普段の生活の状況をお伝えし、把握して頂いている。またホームでの行事(夏祭り・クリスマス会・食事外出)などに参加して頂き楽しまれている。また、それらの様子を新聞発行(年2~3回)し御家族様にお渡ししている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と同様に、大切な友人・知人等が面会にいらした時は、プライバシーに配慮しつつ、自室やラウンジで楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。	自宅仏壇へのお参りや馴染みの理容室への外出などの支援している。また、家族友人の来訪時にはプライバシーに配慮し、居室やラウンジで楽しく過ごせるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を職員が常に把握し、必要に応じて介入することで、良好円滑な関係が築ける様心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年賀状のやり取りや、夏祭りなど行事参加のお知らせのお手紙を差し上げたり、入院先にお見舞いに行ったりと関係は継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の担当職員がおり、状態・症状・言葉や行動を職員間で把握・共有するため、申し送りやカンファレンスで意見交換・報告など行い、利用者様にとって居心地良い環境づくりに努めている。	利用者一人一人の担当職員を決め、消耗品の状況、季節の衣替えなどを介助、日常の会話の中から意向の把握に努め、カンファレンスなどで職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族様から、生活歴やライフスタイル、趣味・嗜好などお聞きし、その人らしい生活が送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を生活記録に残し、利用者様の希望に沿ったケアに努めている。申し送りノートを活用し、何か変化があった際には職員全員が情報を共有し、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで状態の把握・確認・ケアの検討を行い、担当職員はケアプランに沿ったモニタリングを行っている。それに基づいて計画作成者がアセスメント・評価プランを見直しして作成している。	ケアプランに沿ったモニタリングを行い、カンファレンスなどで検討、職員間で意見を共有し、家族の意見を加え、介護計画を作成、定期的な見直しを行い、ケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表・生活記録・受診報告書等に記録し、御家族様にもいつでも閲覧して頂いている。申し送りノートを活用し、送りを行い職員間でも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスへ行き、体操・歌の会などレクリエーション参加、演芸訪問を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの高校生のボランティアを受け入れ、お掃除や利用者様とカルタ、お話など一緒に時間を過ごしてもらったりと支援を頂いている。消防の方には避難訓練の時、協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に一度往診を行っており、体調不良時には看護師と相談し、家族にも連絡し状況を報告し、主治医に電話連絡、または受診し対応している。	協力医療機関による定期的な往診の他、入居前からのかかりつけ医への受診にも対応している。また緊急時には看護師、家族への連絡、医師の指示を受け受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は朝の申し送り・往診・受診にも対応してくれており、利用者さんの体調不良時の相談にも対応してくれている。又、情報交換を日頃から心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけお見舞いに向かい、入院中の状態を把握し医療機関との情報交換、相談などが可能となるよう努めている。利用者さんの状況により環境変化がなく治療できる様、出来る事は出来るだけ通院でフォローできないか医療機関と連携をとれる様努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針においての説明は行っている。その際に当ホームでの医療行為は出来ないこともお伝えし、対応に限界があることもお伝えしている。これらのことを踏まえ、その方にとって最善の方法でターミナル期を迎えられる様努めている。	入居時に重度化した場合の指針を示し、ホームでの対応の限界を説明、了解頂き、同意書を交わしている。今後のターミナルケアに備え、職員の研修を始め、体制の整備に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われている救命講習を受講したり、マニュアルの作成を行い方が一の時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度防災避難訓練を実践すると共に消防への自動通報システム・スプリンクラー・セコムへの自動通報システムも設置している。又、連絡網もあり協力体制は整っている。	防災訓練は年2回行われ、建物にはスプリンクラー、消防など関係者への自動通報システム、消火ホースが整えられており、セコムとの契約も交わされている。緊急備蓄品には停電時の暖房器具の備えもある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは「なれあい」にならない様、相手の気持ちを考慮しつつ行えるよう努めている。	人格、プライバシーを尊重した声かけを基本とし、職員は接遇について様々な機会を捉えて学んでいる。また個人情報などの記録も慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中から出来るだけその方の、その時の思いをひき出せるような会話ができる様心掛け、希望に沿った生活を目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人の生活歴・生活ペースを把握した上で、その方の思いを考慮した生活を提案できる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室への対応、マニキュアや化粧等がしやすい様支援方法を個々に考慮し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から準備や調理作業・後片付けなど個々の残存能力を生かし協力していただいている。	入居者の要望をメニューに取り入れるよう努め、きざみやとろみなどにも対応している。食事は職員も同じ物を同じ時間に食べ、「おいしい」を共有している。調理準備や片付けなど出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や嚥下状態を確認し、刻みにしたり、好みのものを提供しており、水分量はこまめに声かけし提供。嚥下状態が悪いときは、ゼリーにてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、義歯洗浄を本人の残存能力に応じ行っている。週に一度は必ず洗浄液にて除菌を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、声かけをしトイレ誘導を行っている。オムツでもトイレで排泄して頂く様補助し、安易にオムツを増やさない様、尿意に目を向けている。	車いす対応のトイレが回廊下の廊下に3箇所、風呂場に1箇所の4箇所にあり、トイレでの排泄介助に努めている。それぞれの排泄サインを見逃さず、適切なトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	フルーツを摂取したり、体操をして体を動かすように取り組んでおり、状況に応じヤクルトさんと相談し排便困難にならない様に対応している方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの希望をお聞きしながら、体調やご都合などを確認し入浴されており、浴室内の温度を確認し、リフト浴や入浴剤を利用し、安心して楽しく入浴できる様心掛けている。	浴室の広い窓から外を眺めながら、気持ちよく入浴が出来る。更衣場にあるトイレ、リフト浴など、利用者はもちろん、介護者にも優しい設備となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くしたり、日光浴をし、生活リズムを整えたり、その方の生活習慣や体調を確認しながら、無理なく休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、名前・日付・食前・食後など袋に記載し、服用時から飲み込むまで確認しており、薬変更時は説明書に目を通し目的・副作用・用法・容量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の好きな事や、出来る事・状況等を把握し毎日の生活で発揮できる様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て、外出する事もある。普段の会話からやりたい事や行きたい所などを聞き、出来るだけ外出する時間を作る様努力している。	毎月の外出が年間計画の中に組まれている。併設されているデイケアの車を利用し、季節毎の外出、外食を時には家族の協力を得て行っている。日常的には近隣散歩、栗畑やウッドデッキでの日光浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を保持したいという方には、御家族さんにも紛失の可能性等を理解して頂き、お金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には、すぐに電話が出来る様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、生活感・季節感のある装飾をしている。その装飾が利用者様同士の会話の中によく入っていて居心地の良い時間を過ごして頂いている。	共有空間は食堂の他、ラウンジや和室があり、各々のシーンに合わせ利用されている。壁は湿度、匂いに有効といわれる珪素が使われているが、冬期間は更に加湿器を使っている。また照明、季節毎の飾り付けなども、違和感なく落ち着いた共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにラウンジがあったり、誰が使用しても良い場所がある。利用者様同士で好きな時に使われている。所々ソファや椅子があり気軽に団欒されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ今まで使用していた馴染みの物を持ってきて頂いている。居心地の良い空間作りを御家族・職員の話合いのもと行っている。	居室は整理整頓、清掃が行き届いている。また仏壇を始めとして、使い慣れた調度品がそれぞれに置かれている。窓のカーテンも家族が用意し、本人の好みを尊重した居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所は車椅子タイプと普通のタイプのものであり、洗面動作など出来る事はご自分でしてもらえるようになっている。		